

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2172100832
法人名	社会福祉法人 大東福祉会
事業所名	大東グループホーム
訪問調査日	平成 20 年 8 月 21 日
評価確定日	平成 20 年 9 月 13 日
評価機関名	旅人とたいようの会

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家 族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月21日

【評価実施概要】

事業所番号	2172100832
法人名	社会福祉法人 大東福祉会
事業所名	大東グループホーム
所在地	大垣市東前町1丁目86番地 (電話) 0584 - 82 - 1600

評価機関名	旅人とたいようの会		
所在地	大垣市伝馬町110		
訪問調査日	平成20年8月21日	評価確定日	平成20年9月13日

【情報提供票より】(20年7月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日				
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人		
職員数	19 人	常勤	11 人, 非常勤	8 人, 常勤換算	15.6 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり			円

(4) 利用者の概要(7月7日現在)

利用者人数	26 名	男性	7 名	女性	19 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	12 名	要介護4	6 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 87.7 歳	最低	71 歳	最高	104 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大垣市民病院 とみだ内科 大井クリニック
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域密着型在宅福祉の拠点を目指し、カルチャーホールを開放して、地域の子どもから高齢者まで自由に行き来し触れ合いながら安心して地域で暮らせる支援をしている。利用者・家族・職員が意見交換し多職種とも連携しながら信頼関係を構築することを一番に考えている。職員自身の自己評価で質の向上を図り、利用者一人ひとりの介護目標をホーム独自で工夫した「心身状況シート」で確認しながら、日々目標達成に取り組んでいる。地域の福祉推進委員やボランティア等が定期的に訪問している。日常生活も出来ること・したいこと・外出・食事等に楽しみを作り利用者のペースにあわせた暮らしができるホームである。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果は玄関に掲示し公開している。外部評価で取り組みを期待したい内容に取り上げられた項目「運営推進会議を活かした取り組み」「運営に関する家族等意見の反映」「同業者との交流を通じた向上」については、運営者・全職員で改善に向け話し合い、実践に丸となって取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価にあたり、各ユニットごとに全職員で外部評価の意義を確認し、各項目ごとに話し合いの会議をもち、最終的に管理者がまとめ書面にする取り組みをしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1度を定期的に通常の参加メンバーで開催している。ホームの困っていることなど現状報告や新人の紹介・年度行事の検討等話し合い、看護師・利用者も参加している。自治会長から介護の取り組みに関する積極的な話題の提供もあり、地域のよき理解者が増えている。災害時の備蓄にも取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族へは月刊機関紙「なないろ」と利用者担当職員が「お達者だより」で身体状況・変化・目標達成度(介護計画)・行事・職員紹介等知らせている。また意見箱を設置し「エレベーター内にタバコ臭がする」の苦情に即職員と話し合い改善している。常に利用者の言葉に傾聴する姿勢である。更に家族から意見や要望を運営に反映する取り組みとして家族会発足に向けアンケートで意見を求めその結果を分析して検討している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会行事・サロン(老人会・子育て)・ボランティアの利用にカルチャーホールを開放している。ホームの夏祭り・餅つきなどに回覧板を活用して参加を呼びかけている。ホームの前庭ではお茶を楽しみ、夏休みのラジオ体操の会場・ごみ集積場等に利用し、地域住民の親子が立ち寄りやすい環境作りをしている。地域の消火栓の確認や介護予防教室を開催したり、子ども110番の相談窓口も担い地域住民として関わりを深める取り組みをしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念「人間性を尊重し、施設に関わるすべての人たちの心を豊かにするよう目指します」と(行動指針)4か条に地域社会との交流を織り込んでいる。またホーム独自の事業目標を見直し、更なる利用者のその人らしい暮らしのできるサービスを理念と重ねて取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念、行動指針、事業目標等を常に目につく場所に掲示し毎月職員個々の「自己評価票」で反省と達成を確認しながら運営者・職員で理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	カルチャーホールを自治会行事・サロン(老人会・子育て)に活用に開放し、またホームの夏祭り・餅つき等回覧板で参加を呼びかけている。前庭でお茶を楽しみ、夏休みのラジオ体操場・ゴミ集積場に利用し地域住民の親子が立ち寄りやすい環境作りをしている。地域の消火栓の確認や介護教室を開催し子ども110番の相談窓口も担い地域住民としての取り組みをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果は玄関に来訪者向けに公開している。また今回の外部評価にあたり、その意義を運営者・全職員で再確認し、前回の外部評価の改善項目をユニットごとに話し合い、今回の自己報告書にまとめている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度通常の参加メンバーで定期に開催している。ホームの困っていること等現状報告や新人の紹介・行事計画の検討等、看護師・利用者も参加している。自治会長から新聞記事の話題提供や意見も多く、地域のよき理解者が増えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは利用者の生活面・経済面や制度改正等お互いに意見交換をしながら連携している。空きベットを利用した短期利用共同生活介護の指定事業所でもある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族へは月刊広報誌「なないろ」と、利用者担当の職員が「お達者だよ」で利用者一人ひとりの身体状況・目標達成度(介護計画の)・行事・職員紹介等手書きで知らせている。家族の訪問時にもアルバムで様子を知らせたり、訊ねたりしている。また金銭管理についても毎月報告確認している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や不満・苦情など些細なことも言えるよう意見箱を設置し、常に職員は傾聴することを心がけている。「エレベーターの中がタバコ臭がする」の苦情に即職員と話し合い改善している。家族会の発足に向け、アンケートで意見を求め、その結果を分析して取り組みの検討をしている。		3ユニットであること、又運営に反映する為にアンケートの結果を踏まえ、利用者・家族・ホームにとって最適な家族会の発足を早期に期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内で定期異動が年2回あるが、職員の希望を取り入れながら最小限にとどめている。交代する場合は全職員で利用者の混乱を防ぐ声かけや見守りをしている。運営者は新職員の健康に気配りしながら、日々の挨拶や笑顔を忘れず利用者の良い関係作りが出来るよう励ましている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	給食・防災・サービス向上・レクリエーション委員会等職員は何れかの委員会に所属し学習をしている。職員は身体拘束体験で利用者の尊厳を自主学習をしている。運営者は研修情報や機会を提供し学習の場も確保している。必要に応じ学習の報告や発表し共有している。資格取得希望職員にも協力的で向上心を大切に考えている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会に加入している。研修や講習会等に参加し、出会えた同業者や職員と意見を聞いた情報交換する機会をもちサービスの向上に取り組んでいる。ホームのカルチャーホールを必要に応じ開放し情報交換の場を提供している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気や利用者と馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	在宅時の各サービス事業者や本体施設等と電話や出向いて連携を密にし、自宅へも訪問して暮らしぶりを尋ねている。利用前にショートステイを利用したり見学や行事に参加し、ホームの雰囲気や利用者との配慮をしている。家族の訪問や外泊・外出の協力を相談しながら職員も1対1の対応で落ち着いて暮らせる工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日常一緒に過ごしながら、利用者の思わぬ一面を発見し、教えてもらうことや学ぶことが多くある。昭和レトロ展では利用者の生き生きとした話振りや表情から感動し洗濯機・アイロンの使い方やその時代を学んでいる。牡丹餅・梅干・梅酢を一緒に作り、お互いに支え合いながら暮らしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に行事計画の相談を持ちかけ、得意や意向の表出に配慮している。習字・ハーモニカ・花・野菜作りなどの得意分野や、買い物・外出・神社参拝など利用者の希望が叶えられるよう、時間をみつけ支援している。不穏時には1対1で向き合いゆっくり時間をかけて対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	「人生史質問シート」に利用者・家族の要望、意見、不明な点を聞きながら書き入れ、話し合いの時間を作っている。特に家族とは相互理解し合える関係作りに配慮しながら、介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3～6ヶ月を目安に家族・看護師・担当職員・介護支援専門員で話し合い、ケース会議でも意見交換して見直している。状態の変化や退院時等は即見直しをしている。センター方式を改良した独自の「心身情報シート」は、利用者の心身状態総てが解りやすくまとめ担当者を中心に共有している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望や状態を確認しながら、本体施設の行事も外出の一つとして参加したり、ドライブには送迎車を借用している。大物の洗濯も施設で借りたり柔軟に支援している。短期利用共同生活介護の指定を受け、緊急の受け入れも対応できる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者ごとにかかりつけ医があり受診は家族が基本であるが職員が代行することもある。利用者の状態にあわせ主治医が往診の対応もしているが、看護師が必要な情報提供や医師の指示の伝達をしている。遠方の家族も定期的な訪問で連携が密である。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者・家族・主治医・職員で、状態の変化や終末の意向の確認を何度も話し合う場を設け、納得のいくまで話し合い看取りの学習をしたり全員で方針を共有し、その人らしい看取りになるよう取り組んでいる。本人の意志を尊重し在宅で多職種のサービスを利用しながら看取った事例がある。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者が羞恥心や不快を感じる言動をつつしみ、職員同士も注意の声かけをしながら対応している。書類は目につきにくい場所の書庫に管理している。個人情報の取り扱いについては契約時に説明し同意を得ている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	空腹の訴えに食事時間以外に用意したり、満腹の利用者には時間をずらせ、夜間入浴や趣味を優先し、利用者一人ひとりのペースで暮らせるその人らしさを大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は食事の準備・盛り付け、食器洗い・拭く・片付けなど職員と一緒に相談しながら進めている。職員も同席し介助や味付けの確認、好みの物など雑談も交え、また利用者手作りのきゅうりの酢もみ等を添え楽しい時間を作っている。四季の行事食の話題もでる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	看護師の体調チェックを受けてから、利用者の入浴時間や回数の希望に沿うよう配慮している。仲良し同士の入浴や、ゆず湯・菖蒲湯で季節を感じ、歌をうたい温泉気分楽しい会話を心がけている。石鹸代わりに肌に優しい使用済みの茶葉を利用している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	米を研ぐ・汁物づくり・花や野菜作り・ハモニカ演奏・歌う・居室の片付け・買い物・行事を手伝ったりなど役割にしたり楽しみにしたり一人ひとりの力量を生かし発表の場面を作り支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	晴天にはテラスや前庭でお茶を楽しみ、地域の住民にも声をかけている。農園の野菜や花を見ながら散歩にも出掛ける。四季の花見のドライブや、買い物に同行したり、地域行事、施設行事等にとホームに閉じこもらず外気に触れることを重視し支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないことを原則に、ユニット間は開放し自由に往来できる。2階からエレベーターで降りる利用者もあるが、ホーム玄関は自動ドアを手動にし、正面の事務所で職員が常駐し見守りと声かけで対応している。窓は転落防止の為全開できないロックをつけている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災管理委員会を中心に消防署と自治会の協力を得、本体施設と共同で年2回消火・避難訓練を実施している。運営推進会議で防災対策を協議し、利用者と一緒に地域の消火栓・防災庫の場所確認をしながら防災に協力している。スプリンクラー設置も検討中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス・カロリー計算された献立を専門業者(外注)を利用し、ご飯と汁物のみ各ユニットで作っている。摂食量水分量は記録し又利用者の状態(口腔・嚥下)に合わせた形態にしている。業者の嗜好調査・看護師の助言も受けながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に顔写真で職員を紹介している。廊下に利用者の作品やなじみの歌詞を見やすく掲示し、居間にも取り出しやすくなった本棚に趣味の書物が多くある。広いカルチャーホールに洗濯干し台やリハビリ台・掘りごたつのある畳の場所もある。季節の花を飾り不快な音や臭気もなく居心地よく過ごせる空間がある。入浴の石鹸代わりに身体に優しい使用済みの茶葉と麻袋が干してある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた、筆筒・椅子・洋服掛け・帽子・団扇・化粧品や家族写真・自作の書・雑誌等を置き、また畳に寝心地よい自前の布団を敷いたり等利用者にあった落ちつける場を家族と職員で工夫している。また家族の希望があれば宿泊もできる。		